

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立竜王中学校

■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部分」であることをご理解ください。（英語・理科は、3年に1度の調査となります。）

1 調査結果について

■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語の正答率は、全国平均をやや下回っています。特に、「話すこと・聞くこと」領域の、「『話の順序を入れ換えた方がよい』という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択すること」と、「書くこと」領域の「ちらしに『会場図』を加えた目的を説明したものとして適切なものを選択すること」について課題が見られます。記述問題への抵抗感を無くすこと、「書くこと」の基礎的な「知識・技能」を身に付ける必要があります。
- ・数学の正答率は、全国平均を下回っていますが、県平均よりは若干上回っています。問題別に見ると、「求め方を説明する」等の記述式の問題で無回答率が、全国・県平均よりも高くなっています。このため、解答を書く前に何を説明したいのかを明確にすることに課題があると思われます。また、「素数を選ぶ」や「数の性質の説明を完成する」等の問題の正答率が低く、定期的な復習が必要であると考えられます。
- ・理科に関する基礎的な知識を問う問題に対しては、全国平均をやや上回っています。考察をより確かなものにするために実験を考え、その結果を予想して考察・記述する問題に対して理解して解答しています。今後は、実験の予想や考察を理論立てて説明する機会や、それを表現する場を設けていく必要があります。

■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

- ・よい傾向がみとめられる項目
「自分にはよいところがあると思いますか」「人が困っているときは、進んで助けていますか」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」について高い数値を示しています。
- ・課題となる項目
「学校の授業時間以外に普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」「これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか」について低い数値を示しています。

2 これからの取組について

■学校で取り組んでいくこと

- ・ICT機器を利用し、生徒が主体的に学習する場面をより多く設定して、自ら学び・探求する授業を目指して授業改善を進めていきます。また、家庭学習においてもICT機器を効果的に利用できるよう、家庭への持ち帰りを推奨します。
- ・各教科、総合的な学習の時間、特別の教科道徳を含めて、「言語活動」を意識した活動をより積極的に取り入れ、特に「自分の考えをまとめる」力や、「自分の考えを発表する」力を育成するように計画していきます。
- ・生徒が「安心・安全」に通うことができる学校を実現するために、「いじめ」の早期発見・根絶に取り組み、生徒とともに協力して学校づくりを目指します。
- ・健康や食に関する指導を行い、生徒が元気に学校に登校できるよう、引き続き健康づくりを推進していきます。

■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・家庭学習の時間を確保するため、学習する環境作り（ICT機器の利用も含む）にご協力ください。
- ・スマートフォンやゲームの利用（ネットモラルを含む）について家族で話し合い、ルールを確認してください。
- ・1日の出来事などについて、家族で話す時間を週に一度は作ってください。
- ・家庭で新聞・読書等、活字に触れる機会を作ってください。